

國學院大學學術情報リポジトリ

日本語の無標可能表現の用法に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 王, 昕, WANG, XIN メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2522

論 文 要 旨

学籍番号	203215	氏 名	WANG XIN
論 文 題 目： 日本語の無標可能表現の用法に関する研究			
本稿は、日本語の無標可能表現についての研究である。「いくら押してもドアが開かない。」は、「いくら押してもドアが開けられない。」に近い意味であり、後者が可能形を用いた（有標の）可能表現であるのに対し、前者は「無標可能表現」と呼ばれる。非母語話者には習熟が難しいものなので、これを詳しく検討して、非母語話者の日本語学習を益することが、本稿の目的である。 まず、無標可能表現の中心的な特徴を「モノを主語として、望ましい状態変化の達成/不達成を述べるもの」と捉えた。さらに、無標可能表現と認めるべき基準として、次の2点を設けた。 〔基準1〕 動詞は有対自動詞（対応する他動詞をもつ自動詞）であり、その主語はモノであり、状態変化を表すが、その変化を達成しようとする意志をもった動作主がいる。その変化の達成は動作主にとっては望ましいことである。 〔基準2〕 対応する他動詞の有標可能形で置き換えても、文は成立し（無標可能のほうが自然だとしても、置き換えられる）、概ね同様の意味をあらわす文となる。（以上、第1～4章） その上で、日本語話し言葉コーパスを利用し、無標可能表現の条件を満たす事例を抽出し、あわせて、無標可能表現として使われる自動詞についてもリストした。（第5章） さらに、「肯定形の無標可能表現」「無標可能表現はどのような時に使われるか」などについても分析・考察した。 無標可能表現は否定形での使用が優勢だが、肯定形の場合は、状態変化の達成を動作主が完全にはコントロールできない場合に無標可能表現と読めることを確認した。また、可能表現の意味的分類と照らし合わせながら、無標可能表現が使われるのはどのような場合かを見、無標可能表現は「能力可能」といわばそれに隣接したもののうち、「モノ自体のもつ要因によって、動作主がその動作を達成できる/できない」ケースと「動作主の能力とモノ自体のもつ要因との兼ね合いで、動作が達成できる/できない」ケースで使われることを見た。（第6章） 続いて、学習者（中国人学習者）が無標可能表現に習熟しにくい原因について、中国と日本で発行された日本語教科書を見て検討し、教科書が無標可能表現についてほとんど触れていないことが問題であることがわかった。そこで、学習者への無標可能表現の指導法、および、無標可能表現への理解と習熟を学習者に促すためのタスクを提案した。（第7～8章）			
キーワード（5語）			
無標可能表現 有対自動詞 モノ主語 望ましい状態変化 日本語話し言葉コーパス			